

今週（10月15日から10月18日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高は15日の年金定時払いにより400兆円台後半まで膨らみ、その後も横ばい圏で推移した。無担保コールO/N加重平均レートは、積み最終日の15日は、先週の地合いを引き継いで▲0.009%まで上昇するなど、マイナス金利政策開始直後の水準となった。16日からは新しい積み期間に入り、▲0.051%まで低下して始まったものの、その後はGCレポレートがしっかりしていることなどもあって上昇基調となり、週末の18日には▲0.031%まで上昇した。業態別では、15日は信託・地銀・証券業態で▲0.010%前後の出合いとなっていた。16日からは都銀で▲0.070%程度、地銀業態で▲0.070～▲0.035%、証券業態で▲0.060～▲0.040%の出合いとなっている。本日は立ち上がりから地銀、信託業態の調達ニーズが強く▲0.040～▲0.020%程度の出合いとなっている。ターム物はショートタームで▲0.030～▲0.020%の出合いとなっている。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、18日に2W・15,000億円がオファーされ、応札額3,598億円（期落ち額1,598億円）の札割れとなった。

●レポ市場

今週のO/N GCは、新しい積み期に入ったことで、週初はレートを大きく下げたものの、徐々に投資家のオファーニーズが入ることでレートが上昇基調となり、▲0.10～▲0.06%のレンジでの出合いとなった。週初15日のT/Nは▲0.10～▲0.09%までの出合い。16日のT/Nはややレート上げて▲0.09～▲0.08%の出合い。17日のT/Nは投資家のオファーニーズが前日に比べ大きく見られたことでレートを一段と上げ、▲0.08～▲0.07%までの出合いとなった。18日のT/Nも短国の発行が影響したため、レートは一段と上昇し▲0.07～▲0.06%程度の出合いとなった。

SCについてはビッドが目立った銘柄は2y 402～405、5y 136～140、10y 336～338、351～355、20y 169、30y 59～63であった。

●短国市場

今週の短国市場は、海外勢の買いが一服したこと、先週11日の3M物入札で水準の調整が入っていたこと、国債相場が全般的に弱含みとなっていたこと、短国買入オペが減額され続けていること、などの要因から全般的に軟調な展開となった。

16日に実施された短国買入オペは、1,000億円でオファーされた。オペ通告後に6M物が▲0.276～▲0.271%で出合う展開となる中、応札額も10,610億円と多く、平均落札利回較差+0.040%、全取落札利回較差+0.040%と在庫調整の売りから弱い結果となった。なお、年末越えの償還となる3M物（860・861・863）は買入対象から除外されていた。

17日に実施された1Y物の入札は、WI取引において▲0.195～▲0.190%で出合う展開となる中、平均落札利回▲0.1936%、按分落札利回▲0.1876%と前回債からレートが上昇する結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.209～▲0.195%出合いと堅調に推移した。

18日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.270～▲0.250%で出合う展開となったものの、平均落札利回▲0.2385%、按分落札利回▲0.1991%とテールが大きく流れる結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでも、▲0.190%出合いと小甘く推移している。

●CP市場

今週は、20日を挟む発行があり、商社、鉄鋼、小売、ノンバンク等の業態で大型発行があったものの、月の半ばということもあり、先週に引き続き落ち着いたマーケットとなった。週間の金額ベースでみると、4,200億円程度の償還に対して、5,500億円程度の発行と、発行超の市場となった。市場残高については、先週に引き続き19兆円台と横ばいで推移した。企業業績が若干低調であることや、社債市場の発行環境が良好であることもあり、CPの発行はやや伸び悩んでいる。発行レートについては、投資家のマイナスでのキャッシュ潰しニーズはそれほど強くなく、概ね浅いマイナスから0%近辺での決着となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
10/14 (月)						
10/15 (火)	22,207.21	△ 0.175	108.33	△ 0.009	△ 0.093	4,076,900
10/16 (水)	22,472.92	△ 0.165	108.68	△ 0.051	△ 0.093	4,087,800
10/17 (木)	22,451.86	△ 0.160	108.75	△ 0.045	△ 0.077	4,090,000
10/18 (金)	22,492.68	△ 0.155	108.67	△ 0.031	△ 0.060	4,079,200

来週（10月21日から10月25日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
10/21 (月)	9月の貿易統計(財務省 8:50)				
10/22 (火)	即位礼正殿の儀				9月の米中古住宅販売
10/23 (水)					
10/24 (木)	8月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)	20Y 9,000億円 10/25発行			ECB定例理事会(金融政策発表) 9月の米新築一戸建て販売件数 9月の米耐久財新規受注
10/25 (金)		TB3M 42,700億円 10/28発行	交付税借入 10,500億円 11/5発行		

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
10/21 (月)	0	2,400	2,400	国債買入 全店共通 CP買入 国債補完	▲1,600 ▲200 100	1,600 3,600	3,500	5,900	TB3M発行▲42700償還42300 TB1Y発行▲21000償還20600 エネルギー対策借入▲6500期日6500
10/22 (火)	即位礼正殿の儀								
10/23 (水)	▲1,000	2,000	1,000				0	1,000	
10/24 (木)	▲1,000	2,000	1,000	社債買入		1,300	1,300	2,300	
10/25 (金)	▲1,000	▲8,000	▲9,000				0	▲9,000	20Y発行▲10000 交付税借入▲10500期日10500
週間合計	▲3,000	▲1,600	▲4,600	—	▲1,700	6,500	4,800	200	

10/21は日銀予想、10/23以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、資金需給上は大幅な過不足の日はない見込みとなっている。無担保コールO/N物加重平均レートは、積み期間序盤から強めの調達意欲が見られており、それが継続するものと考えられる。レポ市場は、週内に大きなイベントも無いことから極端にレート水準が変化することも無いと見られ、▲0.06%前後の出会いとなることが予想される。短国市場は、25日に3M物の入札が実施予定となっており、入札の水準も含めて市場動向が注目される。CP市場は、月の後半に入り、発行の増加が見込まれる。28日のCP等買入オペを控え、投資家の動向に注目が集まる。

主要なイベントとしては、海外では24日にECB定例理事会が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入